

4. ブダペスト覚書



ブダペスト覚書は1994年12月、ウクライナの核不拡散条約加盟に関し、欧州安全保障協力会議（CSCE [OSCEの前身]）の首脳会議においてウクライナ・ロシア・英国・米国間で取り交わされた文書である。これによりウクライナは自国にあった旧ソ連時代の核兵器をすべて撤去した。2022年2月24日のロシアによるウクライナ侵攻は明白に主文1 および2に違反している。

❖核不拡散条約へのウクライナの加盟に関する 安全の保証についての覚書❖

1994年12月5日発効

ウクライナ、ロシア連邦、グレートブリテンおよび北アイルランド連合王国（以下、英国）、およびアメリカ合衆国は、ウクライナが非核兵器国として核不拡散条約に加盟することを歓迎し、ウクライナが、自国領土から一定の期間内においてすべての核兵器の除去を確約することに鑑み、冷戦の終結を含む世界中に及ぶ安全保障状況の変化、および、それがもたらした核軍備の大幅な削減のための諸条件に留意し、次のことを確認する：

1. ロシア連邦、英国、およびアメリカ合衆国は、欧州安全保障協力会議（CSCE）最終合意書の諸原則に則り、ウクライナの独立、主権、および現行の国境を尊重することをウクライナに再確認する。
2. ロシア連邦、英国、およびアメリカ合衆国は、ウクライナの領土保全そして政治的独立に対する威嚇または武力行使を行わないこと、および、国連憲章に則り、自衛またはその他の場合を除き、ウクライナに対して決して自国の兵器を使用しないことの義務を再確認する。
3. ロシア連邦、英国、およびアメリカ合衆国は、CSCE最終合意書の諸原則に則り、その主権に固有な権利に基づく、そしてそれによるいかなる種類の便

益をも確保しようとするウクライナの行為に対し、自国の利益への従属を企図する経済的強制を行なってはならない。

4. ロシア連邦、英国、およびアメリカ合衆国は、非核兵器国として核不拡散条約締約国であるウクライナに対し、もしウクライナが侵略行為の犠牲、または侵略の脅威の対象になるならば、安全保障理事会の即座の支援行動を求める義務を再確認する。
5. ロシア連邦、英国、およびアメリカ合衆国は、ウクライナの場合に関し、核兵器国と関係があるかまたは核兵器国と同盟関係のある国による、ウクライナ自身、その領土、またはそれに従属する領土、そしてその軍隊、またはその同盟国への攻撃の場合を除き、核不拡散条約に参加するいかなる非核兵器国に対しても核兵器を使用しないというウクライナの義務を再確認する。
6. ウクライナ、ロシア連邦、英国、およびアメリカ合衆国は、これらの義務に関して問題が発生するような状況が起きたときには、協議する。

この覚書は署名により発効する。

署名されたウクライナ語、英語、ロシア語で書かれた4通は同等の効力を有する。

ウクライナを代表して レオニード・D・クチマ

ロシア連邦を代表して ポリス・N・エリツィン

英国を代表して ジョン・メージャー

アメリカ合衆国を代表して ウィリアム・J・クリントン

出典：国連HP

<https://treaties.un.org/doc/Publication/UNTS/Volume%203007/v3007.pdf>

アクセス日：2023年2月27日